

# 2021年度 大阪市立大学 前期 数学 文系

## 第1問

### 問1

$S_n = 1 + 3 + \dots + n$  は、初項 1、公差 2 の等差数列の、 $\frac{n+1}{2}$  項の和であるから、

$$\begin{aligned} S_n &= \frac{1}{2} \cdot (1+n) \cdot \frac{n+1}{2} \\ &= \frac{1}{4} (n+1)^2 \quad \dots\dots (\text{答}) \end{aligned}$$

また、

$$\begin{aligned} T_n &= 1^2 + 3^2 + \dots + n^2 \\ &= \sum_{k=1}^{\frac{n+1}{2}} (2k-1)^2 \\ &= \sum_{k=1}^{\frac{n+1}{2}} (4k^2 - 4k + 1) \\ &= 4 \cdot \left\{ \frac{1}{6} \cdot \frac{n+1}{2} \cdot \left( \frac{n+1}{2} + 1 \right) \cdot \left( 2 \cdot \frac{n+1}{2} + 1 \right) \right\} \\ &\quad - 4 \cdot \left\{ \frac{1}{2} \cdot \frac{n+1}{2} \cdot \left( \frac{n+1}{2} + 1 \right) \right\} + \frac{n+1}{2} \\ &= \frac{1}{6} n(n+1)(n+2) \quad \dots\dots (\text{答}) \end{aligned}$$

### 問2

$(n+1)^2$  と  $n$  が共通の素因数  $p$  をもつと仮定すると、

$$\begin{cases} (n+1)^2 = ap \\ n = bp \end{cases} \quad (a, b \text{ は整数})$$

と表せる。 $n$  を消去すると、

$$\begin{aligned} (bp+1)^2 &= ap \\ 1 &= p(a - b^2p - 2b) \end{aligned}$$

となるが、 $p$  は素数であり、 $(a - b^2p - 2b)$  は整数であるから、矛盾。

したがって、 $(n+1)^2$  と  $n$  は互いに素である。 (証明終わり)

**別解** (ユークリッドの互除法を利用する証明)

$$(n+1)^2 = n \cdot (n+2) + 1$$

であるから、 $(n+1)^2$  と  $n$  の最大公約数は  $n$  と 1 の最大公約数と等しく 1 である。

したがって、 $(n+1)^2$  と  $n$  は互いに素である。 (証明終わり)

問 3

$S_n$  が  $n$  で割り切れるとすると,  $S_n = cn$  ( $c$  は整数) と表せる。

問 1 より  $\frac{1}{4}(n+1)^2 = cn$

$$\frac{(n+1)^2}{n} = 4c$$

問 2 より  $(n+1)^2$  と  $n$  は互いに素だから,  $n \geq 3$  のとき  $\frac{(n+1)^2}{n}$  は整数にはならないが,  $4c$  は整数なので矛盾。したがって,  $S_n$  は  $n$  で割り切れない。 (証明終わり)

問 4

$T_n$  が  $n$  で割り切れる  $\iff \frac{1}{6}(n+1)(n+2)$  が整数

であり,  $n$  は奇数より  $n+1$  は偶数なので,  $(n+1)(n+2)$  は偶数となるから,

$$\frac{1}{6}(n+1)(n+2) \text{ が整数} \iff (n+1)(n+2) \text{ が } 3 \text{ の倍数}$$

$$\iff n+1, n+2 \text{ のいずれかが } 3 \text{ の倍数}$$

$$\iff n \text{ が } 3 \text{ で割り切れない}$$

したがって,  $T_n$  が  $n$  で割り切れる条件は,  $n$  が 3 で割り切れないことである。…… (答)

## 第2問

### 問1

裏が出ると1だけ進む、表が出ると2だけ進む。

点Pの座標が1となるのは、1回目に裏が出るときなので、

$$p_1 = 1 - \alpha \quad \dots\dots(\text{答})$$

点Pの座標が2となるのは、1回目に表が出る または 2回とも裏が出るときなので、

$$p_2 = \alpha + (1 - \alpha)^2 = \alpha^2 - \alpha + 1 \quad \dots\dots(\text{答})$$

点Pの座標が3となるのは、2回目までに表、裏が1回ずつ出る または 3回とも裏が出る ときなので、

$$\begin{aligned} p_3 &= {}_2C_1 \alpha(1 - \alpha) + (1 - \alpha)^3 \\ &= -\alpha^3 + \alpha^2 - \alpha + 1 \quad \dots\dots(\text{答}) \end{aligned}$$

### 問2

点Pの座標が $n+2$ となるのは、1回目に裏が出て $n+1$ 進む または 1回目に表が出て $n$ 進むときであるので、

$$p_{n+2} = (1 - \alpha)p_{n+1} + \alpha p_n \quad \dots\dots\textcircled{1}$$

①より

$$\begin{cases} p_{n+2} - p_{n+1} = -\alpha(p_{n+1} - p_n) & \dots\dots\textcircled{2} \\ p_{n+2} + \alpha p_{n+1} = p_{n+1} + \alpha p_n & \dots\dots\textcircled{3} \end{cases}$$

②より、 $p_{n+1} - p_n = (-\alpha)^{n-1}(p_2 - p_1) = (-\alpha)^{n+1} \quad \dots\dots\textcircled{4}$

③より、 $p_{n+1} + \alpha p_n = p_2 + \alpha p_1 = 1 \quad \dots\dots\textcircled{5}$

⑤ - ④から、 $(\alpha + 1)p_n = 1 - (-\alpha)^{n+1}$

よって、 $p_n = \frac{1 - (-\alpha)^{n+1}}{1 + \alpha} \quad \dots\dots(\text{答})$

### 問3

点Pの座標が $n$ になるまでに、コインを投げた回数が多いほど $\alpha$ の次数が高くなる。

コインを投げた回数が最大となるのは、 $n$ 回とも裏が出たときである。その確率は

$$(1 - \alpha)^n$$

コインを投げた回数が2番目に多くなるのは、1回目から $n-2$ 回目の中で、1回だけ表が出て、 $n-3$ 回は裏が出る ときである。その確率は

$${}_{n-2}C_1 \alpha(1 - \alpha)^{n-3}$$

ゆえに、 $\alpha$ の多項式  $p_n - (1 - \alpha)^n$  の最も次数の高い項の係数は、

${}_{n-2}C_1 \alpha(1 - \alpha)^{n-3}$  の  $\alpha^{n-2}$  の係数である。

$$(1 - \alpha)^{n-3} = {}_{n-3}C_0 + {}_{n-3}C_1(-\alpha) + {}_{n-3}C_2(-\alpha)^2 + \dots\dots + {}_{n-3}C_{n-3}(-\alpha)^{n-3}$$

よって、求める係数は、 $(n-2)(-1)^{n-1} \quad \dots\dots(\text{答})$

### 第3問

$$C_t: y = 3tx^2 - t^3 \iff t^3 - 3x^2t + y = 0 \quad \dots\dots ①$$

$$f(t) = t^3 - 3x^2t + y = 0 \text{ とおくと, } f'(t) = 3t^2 - 3x^2$$

(i)  $x = 0$  のとき,  $f'(t) = 3t^2 \geq 0$  より,  $f(t)$  は単調増加である。

(ii)  $x \neq 0$  のとき,  $f'(t) = 3(t+x)(t-x)$  より,  $f(t)$  は極値  $f(x)$  と  $f(-x)$  をもつ。

#### 問1

題意は、「方程式①を満たす異なる3個の実数解  $t$  が存在する」すなわち、「曲線  $z = f(t)$  と  $t$  軸が異なる3点で交わる」ような実数  $x, y$  の条件を求めることである。つまり,  $f(t)$  は極値をもち, (極大値)・(極小値)  $< 0$  である。

よって

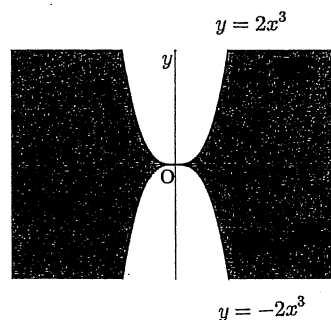
$$\begin{aligned} x \neq 0 \text{ かつ } f(x) \cdot f(-x) < 0 \\ \iff (y + 2x^3)(y - 2x^3) < 0 \end{aligned}$$

この不等式が成り立つことは

$$\begin{cases} y > -2x^3 \\ y < 2x^3 \end{cases} \quad \dots\dots ②$$

または  $\begin{cases} y < -2x^3 \\ y > 2x^3 \end{cases} \quad \dots\dots ③$

が成り立つことと同値である。よって, 求める領域は, ② または ③ であり, 図の塗布部分になる。ただし, 境界線は含まない。



#### 問2

問1と同様にして, 題意は「曲線  $z = f(t)$  と  $t$  軸が1点で交わる」ような実数  $x, y$  の条件を求めることである。

(i) のとき, 曲線  $z = f(t)$  と  $t$  軸は1点で交わり, 題意は満たされる。

よって  $x = 0 \quad \dots\dots ④$

(ii) のとき, 題意を満たす条件は, (極大値)・(極小値)  $> 0$ , すなわち

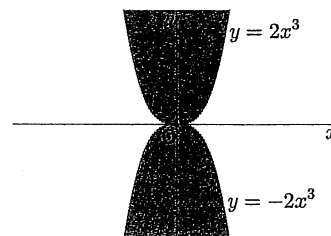
$$(y + 2x^3)(y - 2x^3) > 0$$

である。この不等式が成り立つことは

$$\begin{cases} y > -2x^3 \\ y > 2x^3 \end{cases} \quad \dots\dots ⑤$$

または  $\begin{cases} y < -2x^3 \\ y < 2x^3 \end{cases} \quad \dots\dots ⑥$

が成り立つことと同値である。よって, 求める領域は, ④ または ⑤ または ⑥ をみたく領域であり, 図の塗布部分になる。ただし, 境界は原点  $O(0,0)$  を含み, 他は含まない。



## 第4問

3点 A, B, C は原点 O を中心とする半径 1 の球面上に存在するので,  $|\vec{OA}| = |\vec{OB}| = |\vec{OC}| = 1$  である。

問1

$\triangle OAB$  の面積は

$$\begin{aligned} & \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{OA}|^2 |\vec{OB}|^2 - (\vec{OA} \cdot \vec{OB})^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{1^2 \cdot 1^2 - \left(\frac{1}{2}\right)^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{\frac{3}{4}} \\ &= \frac{\sqrt{3}}{4} \quad \dots\dots (\text{答}) \end{aligned}$$

問2

CP  $\perp$  平面 OAB より,  $\vec{CP} \perp \vec{OA}$ ,  $\vec{CP} \perp \vec{OB}$  である。

$\vec{CP} \cdot \vec{OA} = 0$  より

$$\begin{aligned} & (a\vec{OA} + b\vec{OB} - \vec{OC}) \cdot \vec{OA} = 0 \\ & a|\vec{OA}|^2 + b\vec{OB} \cdot \vec{OA} - \vec{OC} \cdot \vec{OA} = 0 \\ & a + \frac{1}{2}b - \frac{1}{3} = 0 \quad \dots\dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

$\vec{CP} \cdot \vec{OB} = 0$  より

$$\begin{aligned} & (a\vec{OA} + b\vec{OB} - \vec{OC}) \cdot \vec{OB} = 0 \\ & a\vec{OA} \cdot \vec{OB} + b|\vec{OB}|^2 - \vec{OC} \cdot \vec{OB} = 0 \\ & \frac{1}{2}a + b + \frac{1}{6} = 0 \quad \dots\dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

①, ② を連立して  $a, b$  の値を求めると,

$$a = \frac{5}{9}, b = -\frac{4}{9} \quad \dots\dots (\text{答})$$

問3

$$\begin{aligned} |\vec{CP}|^2 &= \left| \frac{5}{9}\vec{OA} - \frac{4}{9}\vec{OB} - \vec{OC} \right|^2 \\ &= \frac{1}{81} |5\vec{OA} - 4\vec{OB} - 9\vec{OC}|^2 \\ &= \frac{1}{81} (25|\vec{OA}|^2 + 16|\vec{OB}|^2 + 81|\vec{OC}|^2 - 40\vec{OA} \cdot \vec{OB} + 72\vec{OB} \cdot \vec{OC} - 90\vec{OC} \cdot \vec{OA}) \\ &= \frac{1}{81} \left\{ 25 \cdot 1^2 + 16 \cdot 1^2 + 81 \cdot 1^2 - 40 \cdot \frac{1}{2} + 72 \cdot \left(-\frac{1}{6}\right) - 90 \cdot \frac{1}{3} \right\} \\ &= \frac{60}{81} \end{aligned}$$

ゆえに,  $|\vec{CP}| = \frac{2\sqrt{15}}{9}$  である。これと (1) の結果を用いて, 四面体 OABC の体積は

$$\frac{1}{3} \cdot \frac{\sqrt{3}}{4} \cdot \frac{2\sqrt{15}}{9} = \frac{\sqrt{5}}{18} \quad \dots\dots (\text{答})$$